

知床の窓から見えるもの

2015年4月27日（月曜日）

「初 まう」

春は出会いの季節です。

今月は、同じ法人内の札幌の五輪橋産科小児科病院から、ひとりの看護師さんに羅臼の医療の応援にきていただきました。

初まうというのは…？

この春に、新しい職員住宅ができました。その名前が「あるびしら まう」です。

アイヌ語で、あるびしらは「オジロワシ」、まうは「ローズヒップ」です。

この春、オジロワシは知床の大空を気持ちよく旋回し、まうは、北海道から西は島根県まで沿岸沿いに自生するハマナスの果実です。花も実も全て有効活用され、人々に喜ばれるハマナスのように、看護師たちも地域の医療で活躍してほしいというそんな願いを職員住宅の名前に込めました。

この住宅のコンセプトは…

遠く離れた町外から、羅臼の医療のお手伝いに来て頂くわけですから、医療だけではなく、北海道道東の魅力を堪能してほしいと思いますし、地域との交流も深めてほしい、そのような思いがありました。

まうは、リビングシェア

第二のリビングがあるという「まう」。入居されている職員のプライバシーはもちろん守られます。建物内に、共有のリビングカフェがあるイメージです。

ちょっとした打ち合わせや町民さん対象の健康教室やもちろん仕事帰りに、コーヒーやちょっと一杯？もOKなリビングシェア♪

(残念ながら、カフェのマスターもママもおりませんので、セルフサービスですよ)

初まうで、お疲れさま会

…という訳で、五輪橋看護師さんのお疲れさま会をしました。ようやく羅臼も漁が始まり、美味しいお魚やカニが食卓に並び始めました。

K看護師さん、遠く羅臼へのご支援ありがとうございました。また、来てくださいね♪

この場をお借りして、五輪橋病院の師長さんの温かいご理解とご協力に感謝いたします。

